

第5回ユネスコスクール関東ブロック大会
ユネスコスクールと全人教育
- 若者エンパワメントに向けた教師の役割 -
大会プログラム

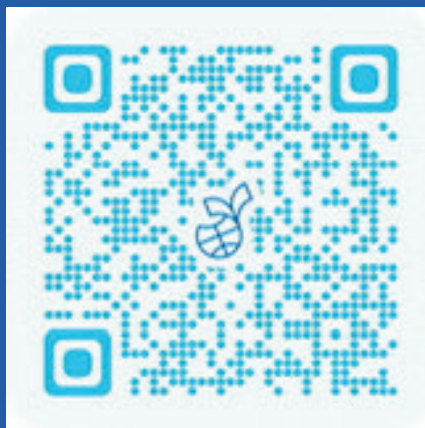


2024年10月5日(土)10時-17時

場所：玉川大学 大学教育棟2014 5階

**参加申し込み：下記QRコードまたはURLから
(参加無料)**

<https://forms.gle/WWAU2HTt9yXRoBvC7>



主催：玉川大学 教育学部

共催：成蹊大学、創価大学、東海大学

かながわユネスコスクールネットワーク(KAN)

協力：公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター (AGCU)

大妻中野中学校・高等学校、東京都立山崎高等学校

玉川大学ユネスコクラブ

後援：ユネスコスクール支援大学間ネットワーク (ASPUnivNet)

公益社団法人日本ユネスコ協会連盟

日本シティズンシップ教育学会

ポスターデザイン：岡本麻鈴(玉川大学芸術学部アート・デザイン学科3年)

HP：<https://sites.google.com/view/unescoschool-kanto5th/>

第5回ユネスコスクール関東ブロック大会

(文部科学省委託事業「ユネスコ未来共創プラットフォーム事業」)

ユネスコスクールと全人教育 — 若者エンパワメントに向けた教師の役割

大会プログラム

【日時】

2024 年（令和 6 年）10 月 5 日（土）10:00~17:00

【場所】

玉川大学 大学教育棟 2014 521 教室 他

主催： 玉川大学教育学部

共催： 成蹊大学、創価大学、東海大学、かながわユネスコスクールネットワーク（KAN）

協力： 公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター（ACCU）
大妻中野中学校・高等学校、東京都立山崎高等学校、玉川大学ユネスコクラブ

後援： ユネスコスクール支援大学間ネットワーク（ASPUnivNet）
公益社団法人日本ユネスコ協会連盟（予定）
日本シティズンシップ教育学会（予定）

参加申込： 以下の参加申込フォーム URL あるいは QR コードからお申し込み下さい（参加無料）。どなたでも参加できますので、みなさまの積極的なご参加をお待ちしております。

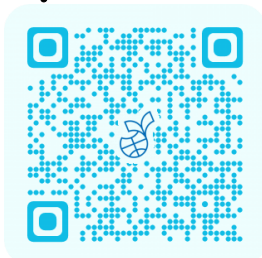
参加申込締切：2024 年 9 月 29 日（日）

【大会申し込みフォーム】

▶form リンク

<https://forms.gle/WWAU2HTt9yXR0BvC7>

▶QR コード



【大会ホームページ】

<https://sites.google.com/view/unescoschool-kanto5th/>

「第5回ユネスコスクール関東ブロック大会」の開会にあたって

このたび「第5回ユネスコスクール関東ブロック大会」を2024年10月5日(土)に玉川大学にて開催させて頂くことになりました。参加者の皆さまには心から歓迎申し上げます。また登壇者をはじめ、本大会の開催にあたってさまざまなご支援とご協力を頂いた先生方と共催・協力・後援団体の皆さまにこの場をお借りして深く感謝申し上げます。

2024年7月現在、日本国内では 1,088 校の学校がユネスコスクール(ASPnet)に加盟しています。文部科学省は毎年開催している「ユネスコスクール全国大会」に加え、それぞれの地域におけるユネスコスクール事業の活性化と質の向上を促すために全国4地域におけるユネスコスクール地域大会の開催を「ユネスコ未来共創プラットフォーム事業」として支援してきました。この支援体制の中で、ユネスコスクール支援大学間ネットワーク(ASPUnivNet)加盟大学が地域大会の開催を担ってきました。関東地方においては2019年10月に玉川大学で開催された「第1回ユネスコスクール関東ブロック大会」を皮切りに、2021年は成蹊大学で第2回大会、2022年は創価大学で第3回大会、2023年は東海大学で第4回大会と毎年ユネスコスクール地域大会を開催してきました。これにより関東地方におけるユネスコスクールのネットワーク構築が大きな進展を見たのです。

この流れを受けて開催される「第5回ユネスコスクール関東ブロック大会」の基調テーマは「ユネスコスクールと全人教育 ― 若者エンパワメントに向けた教師の役割」です。

今年玉川学園は創立95周年を迎えますが、その建学の理念である全人教育はユネスコが推進する変容的教育と高い親和性があります。いずれも私たち人間の生き方そのものの変革を求めていくアプローチだからです。ユネスコスクールは1953年に創設された世界的な学校間ネットワークですが、ESDをはじめとするユネスコの変容的教育の推進拠点と位置づけられています。とくに近年は認知的、社会情動的、行動的スキルを統合した全人的な学びの重要性が強調されるようになってきました。2023年11月に第42回ユネスコ総会にて「ユネスコ新教育勧告」が1974年勧告の全面的改訂として採択されましたが、この新教育勧告においても全人的な視野に立った変容的教育の重要性が強調されています。また教師と学習者の関係性を見直しという観点から若者エンパワメントの重要性も注目されています。これをふまえ本大会においては全人教育の視点からユネスコスクールの新たな展開にとってカギとなる若者エンパワメントの意義と、教師に求められる新たな役割および課題について多角的に検討してみたいと思います。次世代の持続可能な社会の担い手である若者エンパワメントを効果的に支援できる教師の姿について、「世界教師デー」に開催される本大会において一緒に探ってまいりましょう。午前中の全体会ではパリのユネスコ日本政府代表部で勤務経験をお持ちの同志社大学の見原礼子先生の基調講演を受けてパネルシンポジウムを行います。午後は各共催大学と協力校および次世代ユネスコ国内委員会による5つの分科会を企画しています。地域、学校種、世代を超えた「全員野球」で、持続不可能性に脅かされる現実を乗り越える視座の獲得に向けた共同討議を行いたいと考えています。皆さまの人生にとって意義ある時間となることを願っています。

玉川大学教育学部 小林亮（第5回ユネスコスクール関東ブロック大会実行委員会）

「第5回ユネスコスクール関東ブロック大会」
ユネスコスクールと全人教育 ― 若者エンパワメントに向けた教師の役割
(文部科学省委託「ユネスコ未来共創プラットフォーム事業」)

プログラム

【日時】

令和6年(2024年)10月5日(土) 10:00～17:00

【会場】

玉川大学 大学教育棟 2014 5 階

全体会 521 教室

分科会 501、502、503、504、505 教室

【プログラム】

第1部 全体会 10:00～12:00 大学教育棟 521 教室

総合司会：小林亮（玉川大学教育学部）

10:00～10:15 開会式

開会の挨拶 佐久間裕之（玉川大学教育学部長）

文部科学省担当官による祝辞

10:15～11:00 基調講演

見原礼子(同志社大学グローバル地域文化学部教授)

「現代社会において求められるユネスコスクールの役割

― 若者エンパワメントの実験場としての課題と可能性 ―」

11:00～12:00 パネルシンポジウム

「若者エンパワメントのために教師に求められる役割は何か？」

昼食休憩 12:00～13:00

第2部

13:00～13:30 ユネスコスクール・ガイダンス（ACCU） 大学教育棟 521 教室

13:30～16:00 分科会 大学教育棟 501, 502, 503, 504, 505 教室

（ASPUivNet 加盟大学および次世代ユネスコ国内委員会による分科会）

第3部 全体会 大学教育棟 521 教室

16:30～16:50 分科会報告と全体討議

16:50～17:00 閉会式

総括：渡辺一雄（元文部科学省国際課長、元玉川大学教育博物館長）

＜分科会企画＞

1) 第1分科会 大学教育棟 501 教室

企画：成蹊大学

テーマ：「児童・生徒・学生の主体性を育む教育活動（南極・北極 SDGs 探究学習）」

2) 第2分科会 大学教育棟 502 教室

企画：創価大学（創価大学ユネスコクラブ）

テーマ：「多様な視点を体験的に学ぶ、異文化シュミレーション BaFa BaFa」

3) 第3分科会 大学教育棟 503 教室

企画：東海大学 & かながわユネスコスクールネットワーク（KAN）

テーマ：「キャンディデート校も古株加盟校も保護者もともに！語りあいで紡ぐ未来の学びーかながわユネスコスクール・ネットワーク(KAN)の3つの柱とユネスコの新教育勧告(2024 年)を手がかりにー」

4) 第4分科会 大学教育棟 504 教室

企画：次世代ユネスコ国内委員会 教育ワーキンググループ

テーマ：「My UNESCO Story Map ～ユネスコ活動を振り返り交流しよう～」

5) 第5分科会 大学教育棟 505 教室

企画：玉川大学 & 大妻中野中学校高等学校 & 東京都立山崎高等学校

テーマ：「国際対立の解決に向けたユネスコスクール・ユースの探究ワークショップ」

【基調講演】

現代世界において求められるユネスコスクールの役割 ー 若者エンパワメントの実験場としての課題と可能性 ー

見原礼子（同志社大学 グローバル地域文化学部 准教授）

＜講演概要＞

ユネスコスクールは、ユネスコの理念とミッションに立脚しつつ、多様性のもとで共生に向けた持続可能な社会の構築を目指すための若者エンパワメントの実験場として、現代世界においてよりいっそう重要な役割を果たすことが期待されています。本講演では、2021 年刊行のユネスコ報告書『私たちの未来を共に再構想する(Reimagining Our Futures Together)』内でも強調されている教育の「変容(transformation)」というキーワードを出発点として、「誰一人取り残さない／取り残されない」教育を提供するという SDGs の理念の重みを改めて確認しながら、皆様とともに教育の未来を再構想し、行動に移していくための方途を考える機会にしたいと思います。

＜講師プロフィール＞

見原礼子氏は同志社大学グローバル地域文化学部准教授。
博士(社会学)取得後、フランス国立社会科学高等研究院博士研究員を経て、2008 年～2010 年ユネスコ日本政府代表部専門調査員。同志社大学高等研究教育機構准教授、長崎大学多文化社会学部・多文化社会学研究科准教授を経て、2021 年より現職。
専門は比較教育社会学、子ども社会学。ヨーロッパと日本をフィールドとしながら、多文化社会における教育と子育てをめぐる課題について、宗教、価値規範、ジェンダー・セクシュアリティなどをキーワードに調査・研究・教育実践を続けている。近年の共編著として『西洋における宗教と世俗の変容 2——イスラームの定着と葛藤』（2024 年、勁草書房）。他、著書・論文多数。



見原礼子先生近影

分科会

(13:30~16:00)

「第5回ユネスコスクール関東ブロック大会」第1分科会 大学教育棟 501 教室	
タイトル	
児童・生徒・学生の主体性を育む教育活動	
運営者（大学名、学校名、組織名など）	
成蹊大学サステナビリティ教育研究センター	
プログラム（会の構成、登壇者等）	
第一部 13:30-14:30 児童・生徒・学生の主体性を育む教育活動の実践例の紹介 ・成蹊学園(小・中高・大学)での実践例 ・「南極・北極 SDGs 探究学習コンテスト」について（日本極地研究振興会） ・ユネスコスクールキャンディデート校の取り組み ・その他 休憩 14:30-15:00 第二部 15:00-16:00 総合討論 ・児童・生徒・学生の主体性を育む教育の課題 ・今後の児童・生徒・学生のエンパワメント教育について ・各種情報交換など	
分科会のねらい（期待される効果および今後の展望など）	
学校教育の場において、児童・生徒・学生が学びのプロセス（目標、内容、方法、過程、評価）について、自身が選択し、決定する機会を作り出すことにより、「学びの主体性・当事者性」が確保され、児童・生徒・学生のエンパワメントにつながっていくと考えられる。しかしながら、児童・生徒・学生が自身で学びのプロセスを選択・決定することは容易ではなく、教員の様々な補助が不可欠となる。特に、学びへの動機づけに対する働きかけは極めて重要である。本分科会では、児童・生徒・学生のエンパワメントにつながる教員の働きかけ(教育活動)等について、実践例などを踏まえて情報交換し、今後の課題や取り組み方について議論する。本分科会への参加を通じて、ユネスコスクール間のつながりが強化され連携が深まることが期待される。	
備考（準備過程での留意事項など）	
成蹊大学がこれまでにユネスコスクールへの申請を支援してきた学校等を中心に本分科会への参加を呼びかけ、学校間の連携を強化することを目指す。また、SDGs 達成の担い手育成（ESD）推進事業などを実施している公的機関や団体に事業内容などの紹介を依頼し、分科会での議論の活性化をはかる。	

「第5回ユネスコスクール関東ブロック大会」第2分科会 大学教育棟 502 教室	
タイトル	
「多様な視点を体験的に学ぶ、異文化シュミレーション「BaFa BaFa」	
運営者（大学名、学校名、組織名など）	
創価大学 ユネスコクラブ	
プログラム（会の構成、登壇者等）	
本分科会は、Sirts(1977)により作成された異文化関係を対象としたゲームシュミレーションを、日本の参加者にも実感がもてるようなかたちにして実施する。参加者は「異なる文化を訪れる時に感じる同様の感情」を作り出すこの活動によって、文化間の差異の本質を捉えることができる。 1、あいさつ（創価大学ユネスコクラブ）（5分） 2、シュミレーションの趣旨や意義の説明「オリエンテーション」（10分） 3、シュミレーションの実施「Bafa Bafa」（80分） 4、振り返り（15分） 5、閉会のあいさつ（創価大学ユネスコクラブ）（5分）	
分科会のねらい（期待される効果および今後の展望など）	
● 異文化体験を作り出すこの活動によって、他者視点の獲得 ● 実際に異文化と接触する機会の比較的少ない人たちにとっては、このような機会が非常に有効 ● 異なる文化に所属する人が、自分とは異なる規範に従って行動することを体験することは、自らの行動様式を知ることにつながる。 ● 日本国内に、外国人が今後増えてくると考えると、文化を相対化して考えることの意義を再確認する場とすることができる。	
備考（準備過程での留意事項など）	
● 進行役は2名（クラブメンバーが実施） ● 参加者は12名-35名程度を望ましい（事前予約制を検討）	

「第5回ユネスコスクール関東ブロック大会」第3分科会 大学教育棟 503 教室

タイトル

キャンディデート校も古株加盟校も保護者もともに！語りあいで紡ぐ未来の学び
ーかながわユネスコスクール・ネットワーク（KAN）の3つの柱とユネスコの新教育勧
告（2024年）を手がかりにー

運営者（大学名、学校名、組織名など）

東海大学・KAN（ユネスコスクール神奈川ネットワーク）

プログラム（会の構成、登壇者等）

【分科会アウトライン】

13:30 開会

挨拶：

趣旨説明：

13:45～15:50

【この時間のなかで以下の要素を配分する、順番は工夫する】

- ・ アイスブレイク
- ・ 話題提供1：KANの3つの柱
- ・ 話題提供2：ユネスコ新勧告
- ・ ユネスコスクール報告
- ・ ユネスコスクール保護者発表
- ・ グループトーク
- ・ 休憩

15:55 閉会 挨拶：

分科会のねらい（期待される効果および今後の展望など）

- ・ 「交流」をメインテーマとして、ASPNetの本質である「ネットワーク活動」について、本分科会を通して参加者同士が再認識する機会とし、新しいユネスコスクールも、キャンディデート校も、保護者も生徒も地域の方々も交え、語り合いを通じて未来の学びを創造することを目指す。
- ・ 今回はとくに、今までスポットライトが当たることが少なかった保護者の方々にも参加いただき、大いに語っていただくことも大切にする。
- ・ この分科会への参加が、年度末に提出する「ユネスコスクール活動報告書」の実績になることも先生方の参加の動機にしていいただければ。
- ・ 語り合いのキーワードとして、KANの3つの柱＝ホールスクールアプローチ、変容、多様性を取り上げ、KANマインドの継承と発展につなげる。
- ・ もうひとつのキーワードとして、2023年11月、50年ぶりに改定されたユネスコ教育勧告とわたしたちとの関わりについて理解を深め、大きな視野のなかで自分たちの立ち位置を確認する。
- ・ とにかく楽しくつながれて、エンパワーされる分科会を目指す。

備考（準備過程での留意事項など）

「第5回ユネスコスクール関東ブロック大会」第4分科会 大学教育棟504教室

タイトル

My UNESCO Story Map ～ユネスコ活動を振り返り交流しよう～

運営者（大学名、学校名、組織名など）

次世代ユネスコ国内委員会 教育ワーキンググループ

プログラム（会の構成、登壇者等）

対象：ユネスコ活動に取り組むユース世代

目標：今ユネスコ活動に取り組むユースが、高校・大学卒業後も継続的にユネスコに関わりたいと思うきっかけにする

13:30-16:00 （150分）

0、オープニング（15分）

-今日の流れ紹介

-次世代ユネスコ国内委員会の活動紹介

1、私とユネスコ活動の履歴書 ワークショップ（70分）

-次世代ユネスコ国内委員会から「私とユネスコ活動の履歴書」シェア（10分）

-参加者が「私とユネスコ活動の履歴書」を作成（25分）

-グループごとに履歴書シェア（35分）

2、参加者交流会（40分 休憩含む）

-各自の履歴書を壁orホワイトボードに貼り付ける&周りながら質問や共感した点を付箋に書いて貼っておく

-飲食しながらラフに交流する

3、「私にとってユネスコ活動って〇〇！」リフレクション（40分）

-2ではられた付箋確認&振り返る（5分）

-「私とユネスコ活動の履歴書」を踏まえて、各自で私にとってのユネスコ活動を言語化（5分）

-グループシェア（10分）

-全体シェア（20分）※一つの円になって話す

4、クロージング（15分）

-まとめ

-12/1ユースフォーラムの宣伝

-アンケート記入

分科会のねらい（期待される効果および今後の展望など）

目的 活動 効果・展望

- ・ ユネスコ活動のモチベーションの源泉を見つけ、言語化する
- ・ 参加者同士の理解を深める 「私とユネスコ活動の履歴書」 ・ 高校・大学卒業後も継続的にユネスコに関わりたいと思う

- ・ 継続的にユネスコ活動に関わる人たちのコミュニティをつくる

ユネスコ活動は自身のキャリアにどんな意義があるのかを認識する

（どんな学び、機会をもたらすものなのか等） 「私にとってユネスコ活動って〇〇！」

学校・地域を超えてユネスコ活動に取り組む仲間を作る 参加者交流会

備考（準備過程での留意事項など）

- ・ 参加者の名札を用意する
- ・ 「私とユネスコ活動の履歴書」は次世代ユネスコがフォーマットを用意

「第5回ユネスコスクール関東ブロック大会」第5分科会 大学教育棟 505 教室
タイトル 玉川大学・大妻中野中学校・高等学校・東京都立山崎高校 合同分科会
国際対立の解決に向けたユネスコスクール・ユースの探究ワークショップ
運営者（大学名、学校名、組織名など）
玉川大学教育学部・ユネスコクラブ、東京都立山崎高等学校、大妻中野中学校・高等学校 （グローバルセンター、フロンティア・プロジェクトチーム、複言語取り組みチーム）
プログラム（会の構成、登壇者等）
国際対立が尖鋭化しウクライナやパレスチナなどにおける紛争が深刻化している現在、SDGs が目標とする持続可能な世界の基礎である平和を回復することは人類全体にとって喫緊の課題である。世界の安全保障環境が厳しさを増す現在だからこそ、社会の指導層とは異なる視点や行動力を持った若者へのエンパワメントが必要不可欠である。また、平和で持続可能な社会づくりにむけた若者の主体的イニシアティブを効果的に支援できる教師の役割についての再検討も大きな教育課題と言える。 第5分科会では、玉川大学教育学部・ユネスコクラブの学生、大妻中野中学校高等学校の生徒、東京都立山崎高等学校の生徒で高大連携のプロジェクトチームを作り、「国際対立を解決するにはどうしたらいいか」という問のもと、高校生と大学生とが協働で討議を行い、考え得る葛藤解決方法について発表を行う。具体的にはロシアのウクライナ軍事侵攻に焦点を当て、①なぜこの紛争が起こってしまったのか？（原因）、②このウクライナ危機は世界にどのような影響を与えているか（影響）、③この紛争を解決するにはどうしたらいいか（解決）、の3つの問を立てる。この3つの問について、A) ロシアの視点、B) ウクライナの視点、C) 仲裁者としての国連の視点、の3つの立場（3グループ）に分かれてもらい、それぞれの視点から検討する。最後には、異なる視点の間で議論を行い、共通理解が得られるかどうかを検証する。地球市民として「正義の対立」を乗り越える視座を獲得することが狙いである。
分科会のねらい（期待される効果および今後の展望など）
ユネスコスクール加盟校である異学校種（大学、公立高校、私立高校）の生徒・学生達が現在の世界で喫緊の課題である国際対立に焦点を当て、協働で異なる視点から解決法を探究していく議論を行うことは地球市民として葛藤解決スキルを育成するために有効なアクティブラーニングの取り組みになると期待される。
備考（準備過程での留意事項など）
高校生と大学生の間での事前学習と打ち合わせが重要な準備作業になる。

大会実行委員会（玉川大学教育学部ユネスコスクールチーム）

名前（順不同）	所属・職名	役割
小林 亮	教育学部教授	大会実行委員長
佐久間 裕之	教育学部長（教授）	大会長（事業実施責任者）
杉山 倫也	教育学部教育学科主任（教授）	
宮崎 豊	教育学部乳幼児発達学科主任（教授）	
樋口 雅夫	教育学部教務主任（教授）	
鈴木 淳也	教育学部学生主任（准教授）	
中村 香	教育学部教授	
宮本 英征	教育学部教授	
藤谷 哲	教育学部教授	
山田 徹志	教育学部准教授	
尾関 はゆみ	教育学部講師	
中村 亜希子	教育学部学務課 課長	会計責任者

編集

小林亮 玉川大学教育学部

表紙イラスト & デザイン

岡本麻鈴 玉川大学芸術学部アート・デザイン学科 3 年生

第 5 回ユネスコスクール関東ブロック大会

大会プログラム

発行日 2024 年 8 月 15 日
発行者 玉川大学教育学部ユネスコスクールチーム
大会実行委員会
委員長 小林 亮
〒194-8610 東京都町田市玉川学園 6-1-1
玉川大学 教育学部
E-mail: unescotamagawa2024@gmail.com



unesco

Member of
the Associated Schools
Network